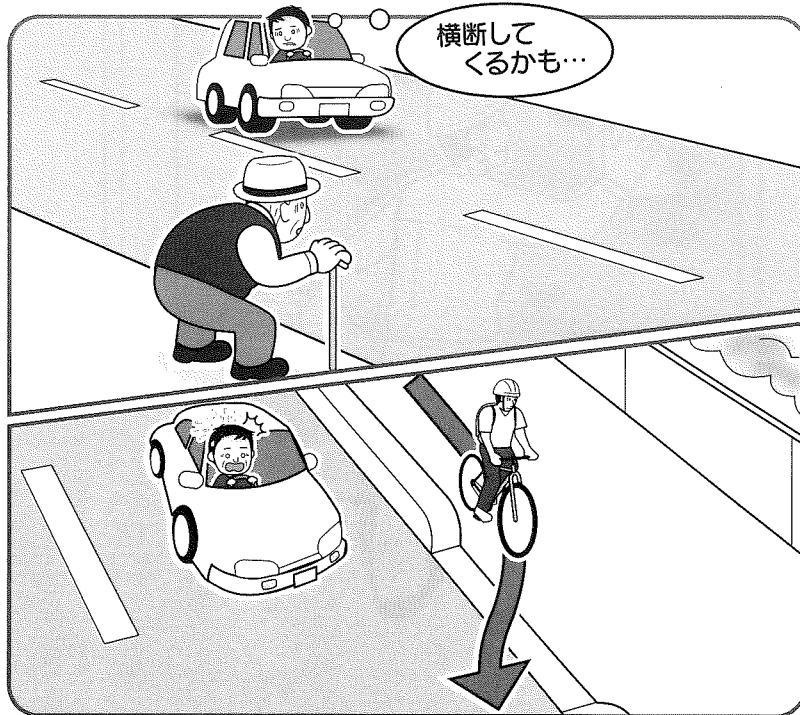


交通安全の心得

「かもしれない」運転で未然に事故防止を

危険予知運転で危険のポイントを抑えて安全運転を



9月になって学校・幼稚園等の学期が始まり、幼児・児童の通学が再開します。また台風や急な大雨等の天候の変化も多く、道路状況の変化、歩行者・車両の突発的な行動などリスクが高まります。運転者は適切な判断で安全な運転行動をするために、次のような危険予知（かもしれない）運転で危険に備える必要があります。

▼先を読む運転

前方の交通状況（急停止、車線変更、車線のはみ出し等）を予測し、急ブレーキや急ハンドルを避けるために、常に先を見ます。信号や標識も確認します。

▼視野を広く持ち周囲の把握

左右、後方の車両、歩行者、自転車などを確認し、周囲の状況を把握します。高齢者、児童、自転車などの歩道からの飛び出しに備えます。

▼他ドライバーの行動の予測

高齢者・初心者ドライバーの安全未確認での急な車道への進入、車線変更、急停止などの危険がないか確認が必要です。

▼制限速度内かつ適切なスピード

スピードが速くなると視野も狭くなります。広い視野を持つて、危険を予測しながら運転できるようにスピードを抑えます。

人は危険な体験から離れると慣れが生じ「危険な状況でも危険と感じなくなる」ものです。危険予知運転をすることで、自身の危険を感知する「心のセンサー」が「かもしれない」と適切に働くようにすることが大切です。